三菱自動車工業株式会社
証券コード：7211

三菱自動車からのお知らせ

平成25年度（2013年度）のご報告
2013年4月1日～2014年3月31日

Route ルート

Drive@earth

MITSUBISHI MOTORS

Top Interview

［トップインタビュー］

このたび、取締役会長兼CEOに益子修、取締役社長兼COOに相川哲郎が就任いたしました。復配も実現し、さらなる持続的成長と企業価値向上に向け邁進する2人のトップが語ります。

取締役会長 兼 CEO
益子 修
Osamu Masuko

取締役社長 兼 COO
相川 哲郎
Tetsuro Aikawa

2013年度は過去最高益を更新し、復配を実現。再生を果たした三菱自動車は、2014年度より、品質改革を最優先にさらなる成長戦略を推し進めます。

Question → 1

まず、2013年度の業績について、振り返りをお願いします。

Answer → 1

益子　2013年度の販売台数は、タイで政情混乱による需要の低迷などにより減少した一方で、その他アセアン諸国、日本、北米、欧州、中国などで着実に販売台数が増加したことにより、前年度比6万台（6%）増加の104万7千台となりました。

この結果、売上高は、前年度比2,783億円（15%）増収の2兆934億円となりました。営業利益、経常利益および当期純利益については、それぞれ1,234億円（+560億円、+83%）、1,295億円（+356億円、+38%）、1,047億円（+667億円、+176%）となり、全ての利益項目において過去最高益を達成しました。

2013年度にはまた、資本政策の面でも大きな進捗がありました。当社は2004年度に三菱グループの支援を受けて企業再生に取り組み始めましたが、業績の改善とともに昨年8月には累積損失を解消するなど財務面での強化も推し進めてきました。そして今年1月には、普通株式の公募増資を実施し、これを原資とした優先株式の全量処理を実現することができました。そ

の結果、2013年度末には、株主の皆様に、16年半ぶりの復配となる普通株式1株当たり25円の配当を実施することができました。

Question → 2

2013年度は、中期経営計画「ジャンプ2013」の最終年度でもありました。この3年間をどのように評価していますか。

Answer → 2

益子　「ジャンプ2013」は、東日本大震災やタイの洪水、円高など、外的環境が非常に厳しい中でのスタートとなりましたが、その後はアベノミクス効果による円高の是正や、世界的な景気の立ち直りといったマクロ的な追い風も吹きました。このような変化の激しい事業環境の中で、身の丈に合った経営、すなわち会社の持っている限られた経営リソースを効率的に活用する経営を心がけました。できないこと、やめるべきことを見極め、成長分野へリソースを投入する「選択と集中」を断行してまいりました。具体的には、アセアン・中国・ロシアなどといった「新興市場」と、「環境対応」の2点に経営資源を集中し、各種施策を推し進めました。その一方で、2012年にオランダの工場を売却し、グローバル視点で生産体制の適正化を進めました。

「ジャンプ2013」が終わり、業績面・財務面でも再生を果たすことができましたが、振り返ってその成功の要因を考えますと、激動する事業環境の中でも、ぶれることなく「選択と集中」を断行したことが奏功したのではないかと考えています。

Question → 3

再生を果たした今、本年6月からはマネジメントも新体制となりました。新たに社長に就任した相川新社長に対して、益子会長が期待することを教えてください。

Answer → 3

益子　相川氏は、開発の経験が長い技術畑出身ですが、国内営業や生産部門、さらには社内の風土改革プロジェクトにも携わった実績があり、非常に幅広い分野での知見を有しております。相川社長兼COOには、その手腕を発揮してもらいたい分野が多々ありますが、中でも私は、品質改革の取り組みにおいて、これまでの経験や知見を存分に活かすことを期待しています。

再生を果たしたとはいえ、品質問題は、継続して取り組みを強化していく最重要課題です。品

質の維持・改善に向けては、商品の開発段階から生産に至るまで、一貫して「お客様第一」の顧客目線でモノづくりに携わっていくことが必要不可欠であり、相川社長兼COOは期待に応えてくれると信じています。

私も会長兼CEOとして、全体を俯瞰しながら新しい成長ステージに入った三菱自動車をリードしていきますが、品質改革を通じて、三菱自動車がクルマに関わる全ての品質において業界トップレベルとの評価をいただけるよう、引き続き努めてまいります。

Question → 4

相川新社長より、社長就任に際しての抱負を聞かせてください。

Answer → 4

相川　当社はようやく、長年の課題であった株主の皆様への配当の再開にこぎ着けることができました。今般社長という重責を引き継ぐ上で、この株主還元を、今後も継続的かつ安定的に続けられるようにすることが、託された重要な使命の一つであると考えています。そのためには、外部環境が変化しても着実に利益を出していける企業体質にしていくことが肝要です。いたずらに台数などの規模を追うのではなく、利益率を誇れる会社を目指していきたいと思います。

では、どうやって着実に利益を出せる体質にしていくのか？　これにはもう一度、三菱自動車のブランド価値を高めていく必要があります。私は、特に「技術」と「デザイン」の2点において、他社にはない商品を投入していくことで価値の向上につなげていきたいと思います。私自身も「よそがやらないことをやれ」「よそより先に新しいことをやれ」と言われて育てられてきました。「技術」については、当社には会社発足以来、新技術を追求する姿勢が、DNAとして脈々と受け継がれています。また「デザイン」は、会社の規模とは関係なく大手メーカーとも伍して戦っていける分野であります。新技術を追求するDNAを呼び覚ますとともに、三菱自動車独自のデザイン力を発揮し、その商品力を確実にお客様にお伝えしていきます。

また、これまで益子会長がぶれることなく断行してきた「選択と集中」は、私も踏襲していきたいと思います。私自身はこれまでの経験を通じて「モノづくりの中で出てくる新技術やアイデアの将来性や価値を見極める力」を培ってきたと思っておりますので、これを経営の視点でも大いに役立てていきたいと思います。10年先を想像しながら、5年先に何をすべきかを考え、その視点から目の前の経営判断へとつなげていく

――このスタンスで新しいステージに立った三菱自動車をさらに成長させていきます。

Question → 5

本年4月から3ヵ年中期経営計画「ニューステージ2016」が始まりました。初年度の2014年度に注力する点や今後の商品投入戦略について教えてください。

Answer → 5

益子　2014年度は、引き続きアセアンを収益の柱と位置づけ、経営資源を投入していきます。販売面では、タイで、今年秋に、主力車種である『トライトン』を9年ぶりにフルモデルチェンジします。生産面では、フィリピンにおいて、今後の本格的なモータリゼーションへの備えとアセアン域内でのバランスの取れた成長戦略を実現するために、2015年1月から新工場での生産を開始していきます。

さらに、14年度以降は、『アウトランダーPHEV』の好調な販売やロシアの貢献により復活を果たした欧州を新たな収益の柱と位置づけ、事業基盤をさらに強化します。これまでオランダ中心に販売していた『アウトランダーPHEV』について、その他欧州各国でも積極的なプロモーション活動を展開することで販売台数を増加させ、欧州事業のさらなる増益を目指します。

日本・北米につきましては、黒字体質の定着を進めます。特に、日本市場では、日産自動車との

軽自動車事業の合弁会社NMKVで開発したeKシリーズの販売台数が発売以降順調に推移しています。14年度はこの効果が通年で寄与することに加え、『アウトランダーPHEV』の拡販により、黒字体質の定着を図ってまいります。

相川　「ニューステージ2016」においては、まずは、当社の利益の源泉となる戦略商品を成功裏に市場投入していくことに最注力していきます。三菱自動車の基幹車種とも言えるピックアップトラック『トライトン』のフルモデルチェンジに引き続いて、2015年度にはSUV『パジェロスポーツ』の新型車を、新興国を中心に世界中で投入する予定にしています。ピックアップトラック、SUV、そしてクロスオーバー系を加えたこれら車種は、当社グループの売上高の半分以上を占める戦略商品です。この戦略商品の販売を通じて得られる利益があって初めて、二つ目の重要施策、すなわち次世代技術の開発を推し進めることができます。具体的には先進国向けに、電動車両の開発・生産・販売に注力していきます。グローバルレベルで強化されつつある環境規制を

クリアしていく上で、車両の電動化は非常に重要な役割を担うことになると考えます。三菱自動車は、この電動化技術の分野でのリーディングカンパニーであると自負しており、今後のブランドのコアとなる商品として、電動車両のラインアップを充実させていきます。

Question → 6

品質改革への取り組みについて、どのように行っていきますか。

Answer → 6

相川　品質改革については、軽自動車エンジンのオイル漏れ不具合問題を端緒として、お客様視点の再徹底と、品質に関わるすべての業務プロセスを見直すために、全社的な品質改革推進活動「カスタマーファースト・プログラム（CFP）」を昨年4月に開始しました。その中で、不具合件数や納入部品不良率、不具合発生から対策決定までの期間などの３つの視点で「クオリティ・ターゲット」と称した目標を設けて取り組んできました。この１年間、社外の専門家の力も借りながら、設計段階から次工程で品質不具合が発生しにくい手法の徹底や、開発の前段階、量産の前段階の日程に余裕をもたせて検証すること、お客様視点の強化の観点から女性による車両評価チームの結成など、さまざまな工程での改革を実施し、一定の効果が目に見える形で現れてきたところです。2014年度からは、「CFP推進室」を新設し、組織としてもこの品質改革をフォローアップする体制としています。

Question → 7

成長戦略を展開していくにあたって、三菱自動車の競争優位性・強みについて、教えてください。

Answer → 7

相川　当社の強みは、『パジェロ』以来のSUVづくりで培ってきた耐久性と走破性、『ランサーエボリューション』で磨いてきた四輪制御技術、そして『i-MiEV』で実現した世界初の量産EV技術の３点です。昨年発売を開始した『アウトランダーPHEV』は、まさにこれらの強みを集大成した商品となっています。

EVの走行距離を長くするには、大容量の電池を搭載する必要がありますが、普通のクルマよりも車高が高いSUVの構造を活用すれば、床下スペースを大きく取れ、そこに大容量の電池を搭載することができます。また、技術的な観点では、モーターを使った四輪駆動は、エンジンによ

る駆動に比べて制御応答性が速く、正確なコントロールがしやすいという利点があります。この二つからも、当社の得意とするSUVと、大容量の電池やモーターを搭載するPHEVとの相性が非常に良いことがお分かりいただけると思います。

今後は当社の持つ強みを最大限活かし、もともと得意としていたSUVのジャンルで、『RVR』の次期車、『パジェロ』の次期車などをベースにしたPHEV車の投入を行っていきます。

Question → 8

16年半ぶりの復配を果たしましたが、最後に、株主の皆様に一言、お願いします。

Answer → 8

益子　16年半もの長い間、株主の皆様に対して配当という企業としての基本的責任を果たすことができなかったことを大変申し訳なく思っております。今般、復配にこぎつけたことで、経営者としてホッとした思いはありますが、ずっと当社を信じて我慢してくださっていた株主の皆様に報いていくのはむしろこれからだと、身の引き締まる思いを強めています。過去の失敗から学ぶべきことを学び、全社一丸となって各種施策を着実に推し進め、皆様のさらなるご期待に応えられるようにしたいと思います。

相川　当社は世界に先駆けて電気自動車を発売しましたが、これからいよいよ世界的に電気

自動車の花が咲き始めてくると思います。株主の皆様におかれましては、EV／PHEVのリーディングカンパニーである当社の成長機会にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2014年 6月

取締役会長 兼 CEO　益子 修

取締役社長 兼 COO　相川哲郎

『アウトランダーPHEV』が2つの賞を受賞!

『アウトランダーPHEV』

SUVタイプとして世界初のプラグインハイブリッド車『アウトランダーPHEV』が、2013-2014日本カー・オブ・ザ・イヤーの「イノベーション部門賞」(環境、安全その他の革新技術を持つクルマ)を受賞しました。主催者(日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会)からは「プラグインハイブリッドとSUVの利点を巧く融合させ、新しいクルマの使い方が提案されている。燃費はもちろん、走行性能も高いレベルで両立。EVでありながら、レンジエクステンダー(航続距離が長い)としてEVのデメリットを解消。大容量電力アウトプットができ、自ら充電もできる点は秀逸」と評価いただきました。

また、『アウトランダーPHEV』に搭載している電動車両技術「プラグインハイブリッドEVシステム」も、高い環境性能、滑らかな加速感、高級車並みの静粛性が高く評価され、日本自動車研究者・ジャーナリスト会議(RJC)の2014年次RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤーを受賞しています。

『eKスペース』発売開始

本年2月、スーパーハイトワゴンタイプの新型軽自動車『eKスペース』を発売しました。日産自動車とともに企画・開発した新型軽自動車第2弾となる『eKスペース』は、「快適」「便利」「安心」をキーワードに、広く快適な居住空間、使い勝手を高める機能装備、安心感ある走りと安全性能を追求しました。クラストップ*1の室内高(1400mm)と室内長(2235mm)を実現したほか、室内の空気を循環させるリヤサーキュレーター、軽自動車最長*2 260mmのリヤシートスライド(左右分割式)など、“33の思いやり機能”を採用しました。また外観の異なる標準モデルとカスタムモデルを用意し、カスタムモデルにはターボエンジン搭載車を設定しました。

『eKスペース』

『eKスペース』カスタム

*1 軽スーパーハイトワゴンクラス(全高1700mm以上かつエンジンをボンネット内に配置した軽自動車)。 *2 2014年2月現在、当社調べ

株主様向け工場見学会のお知らせ

下記のとおり株主様向け工場見学会を愛知県岡崎市の名古屋製作所で開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

見学会概要

見学会場所: 名古屋製作所(愛知県岡崎市)
同製作所では、4WD SUVのプラグインハイブリッド EV『アウトランダーPHEV』やコンパクトSUV『RVR』などを生産しております。

集合・解散: ① JR三河安城駅新幹線北口(バスにて工場まで送迎)
② 名鉄新安城駅北口(バスにて工場まで送迎)
※工場への直接のご来場はご遠慮ください。

開催日程:

	開催日	集合	見学会	解散(予定)
A	2014年9月17日(水)	12:30	13:15〜17:30	18:15
B	2014年9月24日(水)	12:30	13:15〜17:30	18:15
C	2014年9月25日(木)	12:30	13:15〜17:30	18:15

内容: 経営概要等説明の後、デザイン棟及び工場内の見学を予定しております。
対象者: 2014年3月末時点 当社株主の方+同伴者1名様まで可(小学生以上)
募集人数: 各回100名様(含:同伴者)
参加費: 無料(集合・解散場所までの往復交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)

応募要領

応募方法: 右記のとおり郵便はがきに必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。なお、同一株主様の複数応募は無効といたしますのでご注意ください。

応募締切日: **2014年7月16日(水)必着**

当選発表: 厳正な抽選のうえ、当選発表につきましては当選者へのご連絡(8月下旬頃予定)をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細をあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報は、本見学会を実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。

郵便はがき
52円 切手
1088410
東京都港区芝5丁目33番8号
三菱自動車工業(株)
総務部 工場見学会係行

1. 希望集合場所
上記①または②の集合場所から**いずれか1か所**をお選びください。(当選後の希望集合場所の変更はいたしかねますので、ご了承ください。)
2. 希望参加日時
上記A〜Cの開催日程から**いずれか1つ**をお選びください。
3. 郵便番号
4. 住所
5. 自宅電話番号
6. 当日ご連絡可能な連絡先(携帯電話番号)
7. 氏名(ふりがなをご記入ください)
8. 年齢
9. 同伴者がいらっしゃる場合は、同伴者の住所、氏名、年齢をお願いします。

お問合せ先

三菱UFJ信託銀行株式会社内 三菱自動車 工場見学会係
電話番号: 0120-313-282
9:00〜17:00(土・日、祝祭日を除く)

2013年度の決算の概要

当期は全ての利益項目で過去最高となりました。今期も増収増益を計画しております。

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の売上高は、前年度比15%増の2兆934億円となりました。営業利益は、販売費や研究開発費の増加があった一方、為替の好転や資材費等コスト低減の寄与もあり、前年度比83%増の1,234億円となりました。経常利益は前年度比38%増の1,295億円、当期純利益は前年度比176%増の1,047億円となりました。

販売台数は、前年度比6%増の1,047千台となりました。

日本では、登録車の販売は前年を下回りましたが、軽自動車は昨年6月より販売を開始した新型『eKワゴン』『eKカスタム』に加え、今年2月に発売した『eKスペース』が好調に推移し、前年度比7%増の143千台となりました。

北米は、新型『アウトランダー』や新型『ミラージュ』の新車効果により、前年度比14%増の97千台となりました。

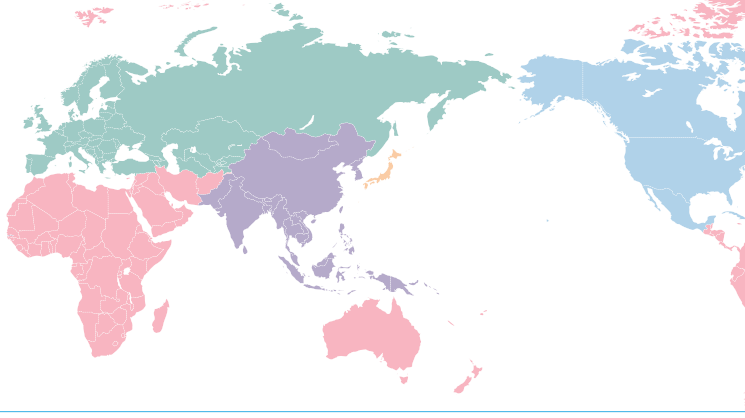
欧州は、『アウトランダーPHEV』などの新車効果により、前年度比11%増の202千台となりました。

アジアは、タイで2012年12月にファーストカーバイヤープログラムが終了したことによる反動や、政情混乱による需要の低迷などにより販売台数は減少しました。しかしながら、広汽三菱汽車有限公司を中心に中国が大きく伸長したことに加え、フィリピン・インドネシアでは過去最高の販売台数を記録し、アジア全体の落ち込みを最小限に抑えた結果、地域全体では、前年度比4%減の344千台となりました。

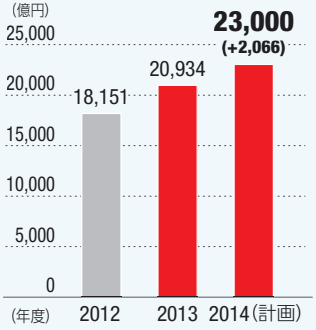
その他地域については、豪州・ニュージーランド、中南米、中東・アフリカ地域ともに前年度を上回り、地域全体で、前年度比14%増の261千台となりました。

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の販売台数計画は、日本3%、北米13%、欧州11%、アジア25%、その他地域3%と各地域で伸長させ、全体では前年度比13%増の1,182千台と計画しております。

この結果、売上高2兆3,000億円(前年度比10%増)、営業利益:1,350億円(前年度比9%増)、経常利益1,380億円(前年度比7%増)、当期純利益1,100億円(前年度比5%増)と増収増益を計画しております。



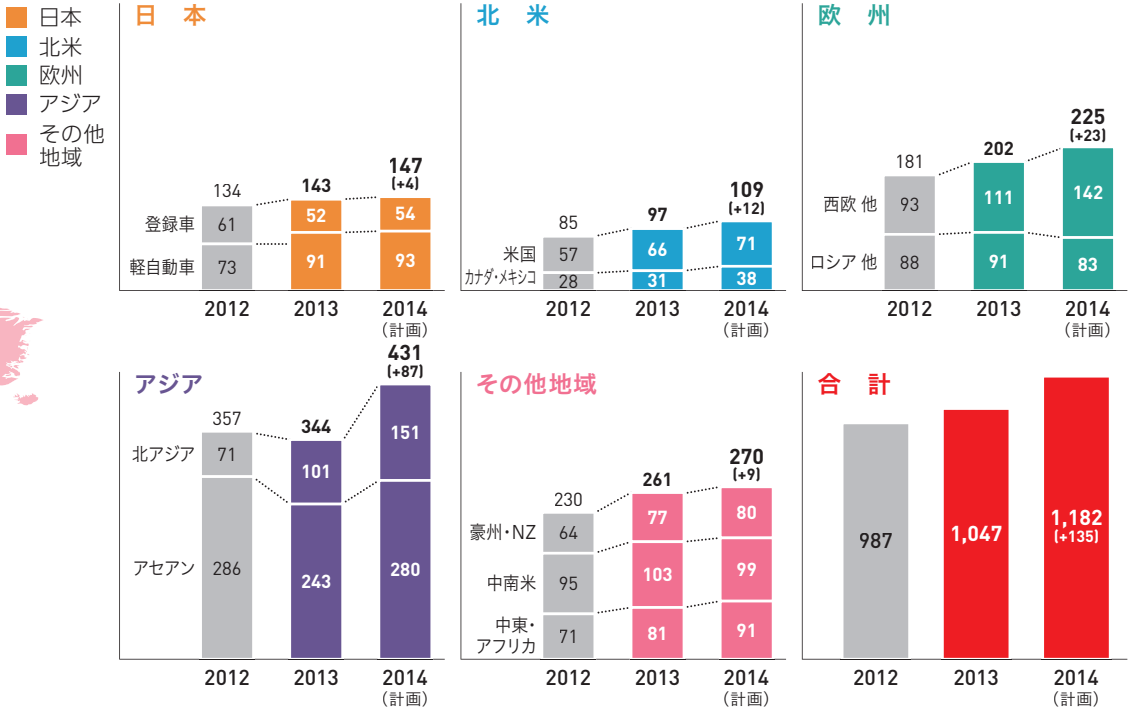
→売上高 ()は前年比



→営業利益 ()は前年比

→当期純利益 ()は前年比

→ 地域別販売台数 (単位:千台／年度) ()は前年比



2013年度連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

科　目	単位:百万円 前年度末 (平成25年3月31日現在)	当年度末 (平成26年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	409,509	450,063
受取手形及び売掛金	149,555	173,535
商品及び製品	143,046	156,080
仕掛品	33,979	24,876
原材料及び貯蔵品	25,295	26,593
その他	123,906	109,437
貸倒引当金	△6,312	△4,025
流動資産合計	878,980	936,561
固定資産		
有形固定資産	386,903	400,801
無形固定資産	12,894	12,937
投資その他の資産	174,031	193,590
固定資産合計	573,829	607,329
資産合計	**1,452,809**	**1,543,890**

科　目	単位:百万円 前年度末 (平成25年3月31日現在)	当年度末 (平成26年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債		
支払手形及び買掛金	313,810	355,724
短期借入金	257,256	153,685
その他	216,180	211,535
流動負債合計	787,248	720,946
固定負債		
長期借入金	107,125	68,672
その他	207,207	204,261
固定負債合計	314,333	272,934
負債合計	**1,101,581**	**993,880**
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	657,355	165,701
資本剰余金	432,666	85,257
利益剰余金	△688,049	340,714
自己株式	△217	△219
株主資本合計	401,754	591,453
その他の包括利益累計額合計	△61,556	△50,921
少数株主持分	11,030	9,477
純資産合計	**351,227**	**550,009**
負債純資産合計	**1,452,809**	**1,543,890**

連結損益計算書

科　目	前年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）	当年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）
	単位:百万円	
売上高	1,815,113	2,093,409
売上原価	1,475,141	1,643,176
売上総利益	339,971	450,232
販売費及び一般管理費	272,589	326,797
営業利益	67,382	123,434
営業外収益	42,152	31,333
営業外費用	15,631	25,295
経常利益	93,903	129,472
特別利益	12,022	2,291
特別損失	36,529	14,568
税金等調整前当期純利益	69,396	117,194
法人税等合計	27,769	10,063
少数株主損益調整前当期純利益	41,627	107,130
少数株主利益	3,648	2,465
当期純利益	**37,978**	**104,664**

連結キャッシュ・フロー計算書

科　目	前年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）	当年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）
	単位:百万円	
営業活動によるキャッシュ・フロー	172,227	210,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	△114,327	△81,352
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,310	△82,083
現金及び現金同等物に係る換算差額	546	3,520
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	50,136	50,527
現金及び現金同等物の期首残高	310,993	361,167
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	37	—
現金及び現金同等物の期末残高	361,167	411,695

全ての利益項目で過去最高益

営業利益、経常利益および当期純利益についてはそれぞれ1,234億円、1,295億円、1,047億円となり、全ての利益項目において過去最高益を達成しました。

自己資本比率は11.6ポイント上昇

純資産合計は前期末から1,988億円増加し5,500億円となりました。この結果、当期末における自己資本比率は前期末から11.6ポイント上昇し、35.0%となりました。連結ネット現預金については、現預金（4,501億円）が有利子負債（2,224億円）を2,277億円上回りました。

会社の概要 (平成26年3月31日現在)

社　　名… 三菱自動車工業株式会社

本　　社… 〒108-8410
東京都港区芝五丁目33番8号
TEL : 03-3456-1111(大代表)

設　　立… 昭和45年4月22日

従業員数… 連結: 30,280名　単独: 12,698名

資 本 金… 165,701,243,103円

役　員 (平成26年6月25日現在)

取締役	益子　修*	取締役会長　兼CEO	服部　俊彦	取締役	
	相川　哲郎*	取締役社長　兼COO	泉澤　清次	取締役	
	春成　敬*	取締役副社長	安藤　剛史	取締役	
	中尾　龍吾*	取締役副社長	佐々木　幹夫	取締役	(三菱商事株式会社相談役)
	上杉　雅勇	取締役副社長	坂本　春生	取締役	(公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会会長)
	青砥　修一	常務取締役	宮永　俊一	取締役	(三菱重工業株式会社取締役社長、CEO)
	田畑　豊	常務取締役	新浪　剛史	取締役	(株式会社ローソン取締役会長)
監査役	木村　英生	監査役　(常勤)	永易　克典	監査役	(株式会社三菱東京UFJ銀行取締役会長)
	福田　滝太郎	監査役　(常勤)	岩波　利光	監査役	(日本電気株式会社特別顧問)
	野島　龍彦	監査役　(三菱重工業株式会社取締役、常務執行役員、CFO)			

注) 1. *印は当社における代表取締役を示しています。
2. 取締役 佐々木幹夫氏、坂本春生氏、宮永俊一氏、および新浪剛史氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
3. 監査役 野島龍彦氏、永易克典氏、および岩波利光氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

ホームページのご紹介

三菱自動車ウェブサイト
投資家情報ページ

http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir_jp/index.html

表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。
表紙：三菱自動車 デザイン部 熊谷周作

VEGETABLE OIL INK

株式情報（平成26年3月31日現在）

発行可能株式総数	1,575,000,000株	**発行済株式総数**	983,661,919株
		株主数	381,183名

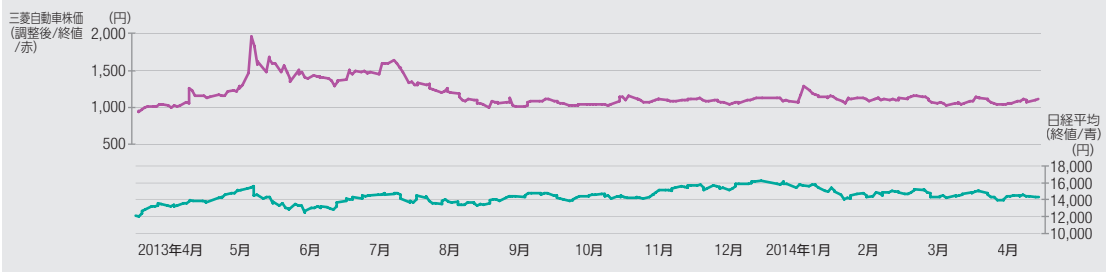
大株主（平成26年3月31日現在）

株主名	持株数（株）	持株比率(%)
三菱重工業株式会社	124,293,855	12.63
三菱商事株式会社	99,044,251	10.06
MHIオートモーティブ・キャピタル合同会社MMC株式運用匿名組合1	38,638,625	3.92
株式会社三菱東京UFJ銀行	38,517,159	3.91
MHIオートモーティブ・キャピタル合同会社MMC株式運用匿名組合2	33,968,253	3.45

株主名	持株数（株）	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	20,513,600	2.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	19,592,100	1.99
三菱UFJ信託銀行株式会社	13,014,521	1.32
明治安田生命保険相互会社	9,459,459	0.96
ステートストリートバンクウェストクライアントトリーティー	7,284,541	0.74

株価の推移（平成26年4月30日現在）

■ 三菱自動車株価　■ 日経平均



株式手続のご案内

- **事業年度**……4月1日から翌年3月31日まで
- **定時株主総会開催時期**……毎年6月
- **同総会議決権行使株主確定日**……3月31日
- **期末配当金支払株主確定日**……3月31日
- **中間配当金支払株主確定日**……9月30日
- **その他の基準日**……上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
- **公告の方法**……電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

（公告掲載アドレス）http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html

- **1単元の株式数**……100株
- **証券コード**……7211
- **株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関**……三菱UFJ信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所**……三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
- **郵便物送付先・電話照会先**……三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL: 0120-232-711（フリーダイヤル）

※ 住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種お手続き等のご請求について

1. 証券会社等の口座をご利用の場合
…お取引の証券会社等にお問合せください。
2. 「特別口座」に記録されている場合
…三菱UFJ信託銀行株式会社（TEL:0120-232-711）にお問合せください。